

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	数学A	単位数	2単位 (1～2学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・スポーツコース
使用教科書	最新 数学A(数研出版)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	・三角形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。	定期考査 授業態度 課題
				○		証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。	
					○	身近な問題に対し、チェバの定理を活用できることを理解し、図形の性質に興味・関心をもつ。	
	第2節 円の性質	・円の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			中学校で学んだ円周角の定理やその逆について理解している。	
			○		方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。		
				○	2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。		
10 11	第3章 数学と人間の活動 第1節 約数と倍数 第2節 1次不定方程式	・さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。	○			約数・倍数の意味を理解している。	定期考査 授業態度 課題
				○		問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。	
					○	日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。	